

# 委27-1

## 第26回宇宙開発委員会（定例会議）

### 議 事 要 旨（案）

1. 日 時 昭和55年12月10日（水）  
午後2時～4時30分
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 昭和55年度1～2月期人工衛星打上げ計画について
4. 資 料
  - 委26-1 第25回宇宙開発委員会（定例会議）  
議事要旨（案）
  - 委26-2 技術試験衛星N型（ETS-N）打上げ及び追跡管制計画書（昭和56年1・2月期）
  - 委26-3 技術試験衛星N型（ETS-N）搭載実験用テープレコーダの開発
  - 委26-4 技術試験衛星N型（ETS-N）搭載マイクロ波帯高出力ガリウムヒ素電界効果トランジスタ増幅器（FETA）について
  - 委26-5 パルス型プラズマエンジン宇宙空間作動確認実験
  - 委26-6 スキャン型地球センサの技術試験衛星N型搭載実験について
  - 委26-7 TT-500A型ロケット9号機による宇宙材料実験について

- 委26-8 TT-500A型ロケット8号機による宇宙材料実験
- 委26-9 昭和55年度第2次観測ロケット実験計画概要
- 委26-10 M-3S-2号機の実験

### 参考配布

昭和55年度1・2月期ロケット打上げ計画一覧

### 5. 出席者

|              |           |
|--------------|-----------|
| 宇宙開発委員会委員長代理 | 吉 識 雅 夫   |
| “ 委員         | 斎 藤 成 文   |
| “ “          | 井 上 啓 次 郎 |
| “ “          | 大 塚 茂     |

### 説明者

|                          |         |
|--------------------------|---------|
| 宇宙開発事業団副理事長              | 鈴 木 春 夫 |
| “ 理事                     | 平 木 一   |
| “ “                      | 平 井 正 一 |
| “ 打上管制部長                 | 長 島 利 正 |
| “ 追跡管制部長                 | 船 川 謙 司 |
| “ 搭載電子装置開発グループ<br>総括開発部員 | 高 比 良 昭 |

|                                       |         |
|---------------------------------------|---------|
| 日本電信電話公社横須賀電気通信研究所<br>複合伝送部衛星通信装置研究室長 | 工 藤 栄 彦 |
| 通商産業省工業技術院電子技術総合研究所<br>極限技術部長         | 中 山 勝 矢 |

科学技術庁航空宇宙技術研究所

宇宙研究グループ主任研究官

村 上 力

宇宙開発事業団システム計画部次長

久保園 晃

科学技術庁金属材料技術研究所

材料強さ研究部第一研究室長

高 橋 仙之助

理化学研究所半導体工学研究室研究員

瀬 川 勇三郎

東京大学宇宙航空研究所教授

森 大 吉 郎

” ” ”

秋 葉 鏖二郎

関係省庁職員等

科学技術庁研究調整局長

勝 谷 保

” 長官官房審議官

神 津 信 男

文部省学術国際局審議官

大 崎 仁  
(代理：横山)

通商産業省機械情報産業局次長

小 長 啓 一  
(代理：吉出)

” 工業技術院総務部長

箕 輪 哲  
(代理：高橋)

運輸省気象庁総務部長

森 雅 史  
(代理：山中)

郵政省電波監理局審議官

三 浦 一 郎  
(代理：三浦信)

宇宙開発事業団システム計画部

炭 電 豊 治

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

吉 村 晴 光

” ” 宇宙国際課長

佐 藤 允 克

” ” 宇宙開発課長

高 木 宏 明

他

6. 議 事

(1) 前回議事要旨の確認

第25回宇宙開発委員会(定例会議)議事要旨案(資料委26-1)が確認された。

(2) 昭和55年度1~2月期人工衛星打上げ計画について

① 宇宙開発事業団の鈴木春夫副理事長及び平木一理事より、資料26-2に基づき宇宙開発事業団の打上げ計画について説明が行われ、了承された。

なお、その際以下の質疑応答及び補足説明が行われた。

(i) 打上げ計画に関する質疑応答

斎藤：技術試験衛星N型(ETS-N)の打上げにおいて、米国NASAから追跡管制の支援を受けるのか。

船川：ETS-Nは静止軌道に投入されないため、我が国の追跡管制網のみによつて十分対処できる。従つて、米国NASAに対し追跡管制の援助は依頼していない。

(ii) ETS-N搭載機器の実験に関する補足説明

宇宙開発事業団の高比良昭搭載電子装置開発グループ総括開発部員、日本電信電話公社横須賀電気通信

研究所の工藤栄彦 複合伝送部衛星通信装置研究室長、通商産業省工業技術院電子技術総合研究所の中山勝矢 極限技術部長及び科学技術庁航空宇宙技術研究所の村上力 宇宙研究グループ主任研究官より、それぞれ資料委26-3、4、5及び6に基づき、ETS-N搭載機器の実験に関する補足説明が行われた。

(iii) 宇宙材料実験に関する補足説明

宇宙開発事業団の久保園晃 システム計画部次長、科学技術庁金属材料技術研究所の高橋仙之助 材料強さ研究部第一研究室長及び理化学研究所の瀬川勇三郎 半導体工学研究室研究員より、資料委26-7及び8に基づき、TT-500Aロケット9号機による宇宙材料実験についての補足説明及び昭和55年度8～9月期に行われたTT-500Aロケット8号機による宇宙材料実験についての中間報告が行われた。

② 東京大学宇宙航空研究所の森大吉郎教授及び秋葉隼二郎教授より、資料委26-9及び10に基づき東京大学宇宙航空研究所の打上げ計画について説明が行われ、以下の質疑応答ののち、同計画が了承された。

吉識：M-3S-1号機で生じた問題については、M-3S-2号機においては所要の改善が施されているのか。

森：そのとおりである。